

学習内容と到達目標

☞ 週末の予定について尋ね、友だちを誘うことができるようになる。

前半：[1. VOCABULARY] ～ [5. SPEAKING]（「ヲ」以外の助詞をとる動詞の導入）

後半：[6. LISTENING] ～ [9. PAIR WORK]（友だちを誘う練習）

指導のポイント

1. VOCABULARY

ここでしっかりと語彙を定着させておく（7語だけなので、それほど時間はかからないはず）。その後③で、動詞の前に置かれる助詞には「ヲ」以外にもいろいろなものがあることに気づかせ、④で各助詞が何を意味するのかを考えさせる。

参考：こと細かに説明し、きっちり理解させようなどと考えず、説明は（巻末の文法解説に書かれている程度の）最小限にとどめ、「学校へ行きます」「部屋にいます」「プールで泳ぎます」のように、とりあえず動詞句単位で覚えさせてしまうのも一案。

2. LISTENING

①は必要な情報さえ聞き取れば、OK。②では、助詞「ニ」「デ」「ヘ」の使い方を確認すると同時に、それ以外の新たな文法事項（助詞「ト」）、語彙（「どこ」「どこか」「どこへも」）、表現（「何をしますか」）に注意を向けさせる。

3. FOCUS

助詞の意味・機能や使い方を理解させるには拡大練習が効果的。①の練習をした後、またはする前に、以下のように練習してみる。

練習例

T：私は食べます

S：私は食べます

T：朝ごはん

S：私は朝ごはんを食べます

T：食堂

S：私は食堂で朝ごはんを食べます

T：友だち

S：私は食堂で友だちと朝ごはんを食べます（語順にはあまりこだわらない）

T：毎日

S：私は毎日食堂でともだちと朝ごはんを食べます

4. PAIR WORK

曜日には助詞「ニ」が使われることは11課で学習するので、助詞なしでも構わないし、（この程度の文法事項は）その場で教えてしまっても構わない。

5. SPEAKING

2度練習。1度目は学習者に一方的に話させ、2度目はところどころ「どこで～？」「何を～？」と質問し、話をできるだけ広げさせるようにする。

6. LISTENING

①では「喫茶店へ行きます。コーヒーを飲みます」のように答えられればOK。②も答えさえ合っていればOK。その後③で、「喫茶店へコーヒーを飲みに行きます」の意

味とともに、2つの文をどうやってつなげればいいのか、その規則を考えさせる（予習をしていれば、何の問題もないはず）。

7. FOCUS

[6. LISTENING] の③で考えた規則が正しいかどうか、予習の段階で正しく理解できていたかどうかをここで確認。

8. LISTENING

①は答えさえ合っていれば、とりあえず OK。②で CD を繰り返し聞き、より細かな情報まで聞き取るようにさせる。その後、③で「誘い」に必要な表現を学習させる。

9. PAIR WORK

[8. LISTENING] の③で学習した「誘い」の表現をチャート上で確認。最初はチャートに沿って会話を作らせる。ある程度慣れてきたら、教科書を見ずに練習、発表させる。

参考：学習者にとって難しいのは「～ませんか」と「～ましょうか」の使い分け。あまり詳しい説明はせず、相手が誘いを受けてくれるかどうかまだわからない段階での最初の「誘い」は「～ませんか」で、相手が誘いを受けてくれた後の、細かな打ち合わせ段階での提案には「～ましょうか」を使うといった程度の説明で十分。

活動例

① 自分が住んでいる町を知ろう！

☞ 地元の市役所などが発行している外国人観光客用の観光案内図を入手。授業では PPT を使い、最初に地元の観光名所を写真付きで紹介。その後、観光案内図を見て各観光名所の位置を確認すると共に、市内の公共交通のルートも確認する。確認が終わったら、週末に行きたい観光名所を数カ所選ばせ、周遊ルートを考えさせる（開館時間や営業日にも注意）。また、費用の総額も計算させる。できるだけ安く回るために1日乗車券などの割引切符の情報などを提供したり、昼食のためにおいしいラーメン屋の情報を提供したりするのもよい。

② 友だちを誘う

☞ 活動例①で地元の観光名所について基礎的な知識（位置、行き方、開館日、開館時間など）を得た後で [9. PAIR WORK] をリアルな状況でもう一度やってみる。

授業で使えるリソース

☞ 近年外国人旅行者や居住者の増加とともに、大きな都市では日本語の他に英語や中国語、韓国語（町によってはポルトガル語）などで観光案内を作成しているので、それを使う（日本語の授業だからと言って、情報の入手まで日本語でする必要はない）。